

子育てひとくちメモ15, 「子どもの成長と勇気づけ」

—幼児期の勇気づけ1—

たくさん話しかけるとか、たくさん遊ぶとか、以前の乳児期からの働きかけがずっと続いていたほうがいいですが、その他のことでは子どもを保護することを徐々にやめていかなければならないです。親は、いつまでも子どもを乳児と同じ扱いをしがちです。子どもはかまえばかまうほどダメになります。それはそうでしょう、育児の目標のひとつである「子どもの自立」を妨げますから。

何もかも全部やってあげていると、子どもは何を学び、どう成長していくでしょうか？周囲の人は、自分の考えがわかって、思いやって、押し量って、自分の代わりに問題を解決してくれて、それで当然と思うようになるでしょう。そういうふうに思った子はあとで大問題を起こすかもしれません。引きこもり？家庭内暴力？不登校？非行？……。こうならないように、子ども自身の問題は徐々に子ども自身にやってもらうようにします。それは、放っとけというわけではありません。まず、子どもの命は絶対に守って、そうして絶えず、「何かしてほしいことある？」とか「言ってくれたらできることはしますよ」と問いかけていきたいです。(つづく)

(津山工業高校スクールカウンセラー：大森 浩)